

6. 事業内容	■全体 妊産婦・新生児保健(MNCH)に焦点を当てた、質の良い保健サービスの利用へのアクセスの増加を目的に、3年間の事業実施期間で、保健センター・母子保健棟の改築と マタニティハウス(出産待機ハウス)およびユースセンターを3地区(マサイティ郡ムタバ、ムポングウェ郡カルウェオ、ミカタ)に建設し、総合的に保健サービスを提供する拠点(ワンストップサービスサイト)づくりを行い、あわせて保健医療従事者の研修等を通じて質の良い保健サービスを提供する技術を高める。また、ワンストップサービスサイト(3地区)を含めた10地区(マサイティ郡の5地区及びムポングウェ郡の5地区)の母子保健推進員(Safe Motherhood Action Group: SMAG)および保健医療従事者の育成を通して、コミュニティレベルでの啓発教育活動により住民の意識を高め、行動変容の促進を通して、妊産婦・新生児保健の向上を目指す。(添付 1:2015 年報告書(英文)、添付 2:プロジェクトサイト地図、添付 3:プロジェクト活動マップ) 「持続可能な開発目標(SDGs)」については、以下の目標に該当する。 目標3:あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する 3.1 2030 年までに、世界の妊産婦の死亡率を出生 10 万人当たり 70 人未満に削減する。 3.2 すべての国が新生児死亡率を少なくとも出生 1,000 件中 12 件以下まで減らし、5 歳以下死亡率を少なくとも出生 1,000 件中 25 件以下まで減らすことを目指し、2030 年までに、新生児及び 5 歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。 3.7 2030 年までに、家族計画、情報・教育及び性と生殖に関する健康の国家戦略・計画の組み入れを含む、性と生殖に関する保健サービスをすべての人々が利用できるようにする。 目標5:ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う 5.6 国際人口・開発会議(ICPD)の行動計画及び北京行動綱領、ならびにこれらの検証会議の成果文書に従い、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的アクセスを確保する。 目標 17:持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。 ■3 年次の目標 第 2 年次に設立するワンストップサービスサイト(カルウェオ地区)の有効性についてのアセスメントを保健サービス利用者や提供者へのインタビューなどを通して行い、より質の良いサービスが提供できるよう改善する。また、若者も含めたワンストップサービスサイトの活動を強化するため、継続ケアのための保健施設と地域の連携を持続可能にするシステムをつくり、最終年として持続発展に向けた体制に向け地域でのさらなる連携強化を目指す。 ■3 年次の活動 1. 妊産婦・新生児保健に関する知識と情報の啓発教育を行う ①「ピア(仲間)教育のフォローアップ研修」の実施
---------	--

ワンストップサービスサイトである 3 地区の若者ピア・エデュケーター(PE)60 名を第 1 年次及び第 2 年次に育成し、第 2 年次には、3 地区の若者及び母子保健推進員(SMAG)のリーダー24 名を対象に、初経教育をテーマとした研修を実施した。初経教育の冊子を作成し、マギーエプロンを活用した思春期を対象にした初経教育のセッション及び改善に向けたフィードバックを行った。

次世代を担う若者も含めたワンストップサービスサイトとして、PE の活動を通じた若者への啓発教育は重要な活動のひとつであるため、第 3 年次には、PE60 名を対象に、2 日間の「ピア(仲間)教育フォローアップ研修」を実施する。研修では、プロジェクト終了後も PE の活動が継続され、地域の若者の保健サービスと情報へのアクセスがさらに向上するよう PE のスキルアップを図ると同時に、保健医療従事者からの助言のもと、SMAG とさらに連携を強化する体制についても協議する。

2. 保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質の向上

①ワンストップサービスサイトの整備

第 3 年次は、ムポングウェ郡ミカタ保健センターをワンストップサービスの拠点とし、母子保健棟の改築、出産に必要な医療機材の供与、マタニティハウス、ユースセンター、助産師の住居棟の建設を行う。妊産婦・新生児、若者への保健サービスを 1ヶ所に集中させ、コミュニティにとってより身近に必要なサービスや情報が得られる場所を整備する。また、安全なお産に向けたメッセージや若者へのメッセージを含めたイラストをマタニティハウスやユースセンターの外壁に描くための参加型ペインティングワークショップを開催する。SMAG や若者 PE など住民の参加を促し、ボランティアのモチベーションやオーナーシップ(主体性)の向上を目指し、住民の保健サービスへのアクセスをさらに増やす。

1 年次に建設したムタバ地区のワンストップサービスサイトでは、郡保健局の監督の下、メンテナンス委員会が設置され、施設の運営・管理を担っている。また、建物の修繕等も保健センターおよびコミュニティの資金によって行われている。2 年次に建設されたカルウェオ地区のワンストップサービスサイトおよび今期のミカタ地区のワンストップサービスサイトでも、同様に地区プロジェクト運営委員会と協議し、メンテナンス委員会を設置し、施設の運営・管理を行っていく予定である。また、プロジェクト終了後に速やかに郡保健局に引き渡しができるよう、郡保健局と協力してその体制を整備していく。

②第 2 年次ワンストップサービスサイトのアセスメントの実施

第 2 年次に建設した施設(ムポングウェ郡カルウェオ地区)について、妊産婦・新生児保健サービスの利用者、マタニティハウスやユースセンターの利用者、サービス提供者である保健医療従事者、SMAG、若者ピア・エデュケーターを対象に、個別またはグループでの聞き取りを通して、ワンストップサービスサイトとしての有効性や利用者にとってより親切で利用しやすいサービスが提供されているかどうかアセスメントを行い、より質の良いサービスへの改善を目指す。

3. 継続ケアのための保健施設と地域の連携体制整備

①プロジェクト運営委員会の開催

プロジェクト運営委員会(地区レベル Local Steering Committee、郡レベル Project

	Steering Committee)を年に各 1 回開催し、プロジェクトの進捗状況の確認、各地区での課題や好事例の収集と共有を図り、地域での継続した活動についての確認を行う。 また、プロジェクト終了後のワンストップサービスサイトの運営・管理についても協議する。 ②SMAG レビュー会合の開催 10 地区において、月例会合を行っているが、年間レビューとして、SMAG のレビュー会合を開催し、各地区の啓発教育活動の状況を把握し、課題についても討議する。また、住民の行動変容や地域での変化について好事例などの共有を行い、地域での継続した活動についての確認を行う。プロジェクト終了後も SMAG の活動が継続されるよう、保健医療従事者や PE との連携強化についても話し合う。 ③最終調査及び最終ワークショップの開催 プロジェクト開始前に実施した基礎調査と比較するため、最終調査を実施する。また、最終的なプロジェクトの成果や課題についてまとめ、地域での好事例を含めたプロジェクト経験を共有し、事業終了後のフォローアップ活動及び事業の持続可能に向けた活動計画についても確認する。最終ワークショップでは、評価を含めたワンストップサービスの有効性、地域ネットワークの連携によるシステム、参加型マタニティハウスづくりについての経験を広く共有することを目的とし、プロジェクト関係者及び国際機関などを対象に開催する。
7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	①これまでの事業における成果(実施した事業内容とその具体的成果) 本プロジェクトで期待される活動・成果は、以下の通りである。 1) プロジェクトの運営体制が整う 2) 家族計画、産前・出産・産後ケア、性感染症を含む正しい知識と情報が地域住民に届く 3) プロジェクト地区における保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質が向上する 4) 継続ケアのための保健施設と地域との連携・協力体制が整う 2 年次までに達成された成果は以下の通り。 1)プロジェクトの運営体制が整う 第 2 年次スタートアップ会議で、地区レベルプロジェクト運営委員会メンバー及び郡保健局、州保健局、保健省などの関係者と、第 1 年次の成果及び課題を見直し、事業の持続可能性も含めて郡ごとの計画について討議を行った。第 2 年次の活動計画や活動内容の理解を深め、事業の持続性への意識を高め、プロジェクト運営体制がさらに強化された。 2)家族計画、産前・出産・産後ケア、性感染症を含む正しい知識と情報が地域住民に届く 第 1 年次及び第 2 年次にて、SMAG300 名(プロジェクト対象 10 地区)と若者ピア・エデュケーター(PE)60 名(ワンストップ・サービスサイト 3 地区)が育成され、地域での家庭訪問やグループトークなど様々な啓発教育活動が展開されている。

SMAGを対象にした行動変容のためのコミュニケーション技能研修では、第1年次に行ったマギーエブロンなどの教材を効果的に活用した健康教育セッションに関するレビューを行い、各地区での活動状況を共有し、行動変容に向けた効果的なコミュニケーションについて改めて活動の見直しが行われた。また、活動で直面した返答に難しい質問などの洗い出しも行うことが出来た。また、若者 PE 及び SMAG (PE12 名、SMAG12 名)を対象にした研修では、初経教育をテーマに、小冊子やすごろくゲームの作成を行い、思春期や若者への啓発教育活動を強化させた。

プロジェクト地区 9 地区の保健医療従事者 9 名を対象に、保健施設での保健指標及び活動のレビューを行い、保健指標及び活動レポートの改訂作業を行った。保健指標及び活動レポートを通してモニタリング・評価についての理解を深め、また各地区の SMAG や PE との連携についても見直す機会となった。

3)プロジェクト地区における保健施設で提供する妊産婦・新生児保健のサービスの質が向上する

カルウェオ地区における母子保健棟、マタニティハウス、助産師住居、ユースセンター4棟の建設については、州保健局及び郡保健局(建設担当)とモニタリングを実施し、9月のペインティングワークショップ及び開所式に向けて準備を進めている。

ムタバ地区のワンストップサービスサイトの施設の運営管理については、メンテナンス委員会を設置し、必要に応じて会合を開催し、保健センター及びコミュニティの資金により修繕を行っている。また、1年次のムタバ地区での開所式で州保健局から救急車の供与について宣言され、6月中旬に調達される予定である。郡保健局と協議を進め、次年度のムタバ保健センターの政府予算にメンテナンス費および燃料費を含め増額させるための討議を進めている。カルウェオ地区においても同様に、コミュニティレベルのメンテナンス委員会の設置及び保健センターの予算について郡保健局と協議を進め、事業終了後には郡保健局に引き渡す体制を整備していく。

4) 継続ケアのための保健施設と地域間の連携・協力体制が整う

地区レベルプロジェクト運営委員会(LSC)のレビュー会合が6月に予定されており、地域での活動の持続可能性に向け、行動変容の好事例や課題などを含め討議し、地区ごとに持続可能な地域での啓発活動及び施設の運営管理費のための収入創出活動計画を立てる。また、7月の本邦研修では、日本の地方行政と地域の保健ボランティアである母子保健推進員等との連携による活動から、より質の良い母子保健サービスを提供するためのシステムづくりを学び、包括的な母子保健サービスや持続発展のためのシステム強化に向けた活動計画を郡レベルまた州・中央レベルとして策定する予定である。ワンストップサービスのアセスメント結果を踏まえ、本邦研修にて策定される活動計画、2年次の地域での活動による成果や経験を共有するためのコミュニティ連携強化ワークショップを11月に実施する。

②これまでの事業を通じての課題・問題点

1) 若者と保健サービスの連携強化

十代による若年妊娠が多く、継続ケアの観点から若者を含めたワンストップサービスとして、包括的な保健サービスを行うために、保健医療従事者との連携を一層

強化する必要がある。保健施設では、母子保健が主なサービスとなっており、いかに若者のサービスへのアクセスを増加させるか、また郡保健局、保健施設スタッフ、若者 PE や SMAG などとも協議を進め、体制を再確認する。

2) 成果のためのデータ指標

成果を測るための、必要なデータ指標を入手する効果的な方法と SMAG や PE の活動報告フォーマットの協議を行い、改訂を行った。データ指標や活動報告書などをレビューし、郡保健局と定期的なモニタリングを強化する。また、各地区において、母子保健指標や活動状況を地域住民に広報できるようなコミュニティモニタリングボードの設置を郡保健局と検討している。

3) 施設の運営管理

ワンストップサービスサイトの施設の運営管理について、ムタバ地区ではメンテナンス委員会が設置され、必要に応じて会合を持ち、保健センター及びコミュニティの資金により修繕を行っている。また、地区プロジェクト運営委員会から農業や養鶏による収入創出活動から得た収入を、メンテナンス費に充てる案が提案され、世帯ごとに寄付活動が行われた。郡保健局と、ワンストップサービスサイトの保健センターに充てる予算の増額を次年度の年間予算に含めることを引き続き協議する。また、住民自らの参加活動による持続可能な方法を試み、検討していくことも必要である。

③ 上記②に対する今後の対応策

1) 若者と保健サービスの連携強化

6 月に開催予定の地区レベルプロジェクト運営委員会レビュー会合にて、ワンストップサービスサイトの保健医療従事者及び運営委員会メンバーとともに、サービス提供の流れ及び体制など、マネージメントについての再確認を行う。また、第 3 年次に若者 PE を対象にフォローアップ研修を行い、保健施設や地域とも連携強化し、若者に必要な保健サービス・情報のアクセスの向上を目指し、若者の望まない妊娠や若年妊娠、性感染症予防等の推進を強化する。

2) 成果のためのデータ指標

郡保健局との定期的なモニタリング会合にて、各施設の必要なデータ指標及び活動報告書のレビューを行う。6 月の地区レベルプロジェクト運営委員会レビュー会合、11 月のモニタリング会合にて郡保健局と進捗及び活動計画について協議する。また、各地区にて、母子保健指標と活動状況を地域住民に広報するシステムとして、コミュニティモニタリングボードを設置することを、郡保健局と協議を進めており、6 月のプロジェクト地区運営委員会において協議する予定。

3) 施設の運営管理

6 月のプロジェクト地区レベル運営委員会レビュー会合にて、ワンストップサービスサイトでの施設の運営管理計画及び収入創出活動について、具体的に協議を行い、活動計画を作成する。提案として挙げられている農業や養鶏などによる収入創出について、マサイティ郡農業部門によるアドバイスや活動の成功例などからどのように計画するか検討し、住民が自ら少しずつ開始できるような仕組みを、継続してフォローアップする必要がある。また、郡保健局とは、次年度の予算にワンスト

	ップサービスサイト(ムタバ地区、カルウェオ地区)のメンテナンス費などを含め増額するべく協議を進め、事業終了に向けた政府への引き渡しのための体制を整備する。 ④「持続可能な開発目標(SDGs)の該当目標の視点から 本事業は、保健人材の育成や妊産婦・新生児保健サービスの質の向上により、SDG 目標3に該当する妊産婦死亡率及び新生児死亡率の削減及び家族計画や性と生殖に関する保健サービスへのアクセスを向上させることに寄与する。また、目標 17 のさまざまなパートナーシップと連携し、それぞれの強みを効果的に活用した連携協力のもと、活動を推進する。
8. 期待される成果と成果を図る指標	<第 3 年次の成果と指標と確認方法> 成果①プロジェクト運営体制が整う ➤ 地区プロジェクト運営委員会レビュー会合が年に 1 回、郡レベルプロジェクト運営委員会が年に 2 回開催され、モニタリングが行われる。(活動報告書、会議議事録) 成果②家族計画、産前・出産・産後ケアを含む正しい知識と情報が地域住民に届く ➤ 家族計画・産前・出産・産後ケア・施設分娩の重要性を含めたセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス(SRH)に関する知識や情報を得た住民の数が年間 4 万人以上になる。(母子保健推進員、若者ピア・エデュケーターによる報告書(健康教育セッション数、参加者数)) ➤ 望まない妊娠の予防や性感染症の知識や情報を得た若者(15～24 歳)の数が年間 1 万人以上になる。(母子保健推進員、若者ピア・エデュケーターによる活動報告書) 成果③プロジェクト地区における保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質が向上する ➤ 2 年次に完成したワンストップサービスサイトであるカルウェオ地区の保健施設で母子保健サービスを利用した女性の満足度が基礎調査時の 84%から 94%以上に向上する。(サービス利用者聞き取り調査) 成果④継続ケアのための保健施設と地域の間の連携体制が整う ➤ SMAG が産前産後の女性および新生児の健康状態について毎月とりまとめ、保健医療従事者へ報告する。(活動報告書) ➤ SMAG との連携により分娩計画(バースプラン)を活用する妊婦が平均 71%から 3 年次終了までに 90%に増加する。(活動報告書) ➤ 本邦での母子保健事業を好事例とし、地域と行政の繋がりと連携協力システムや保健師の活動を含む地域のセクター間の協働について理解度が向上する。(研修前後のアンケート) ➤ 住民参加型の妊産婦・新生児保健サービス利用促進強化のための持続可能なシステム及び包括的かつ継続ケアの体制が整備される。(活動報告書) 「持続可能な開発目標(SDGs)」への貢献の視点から: 妊産婦・新生児保健サービス利用へのアクセスの増加により SDGs3 及び 5 の達成を目指し、以下をプロジェクト目標とインパクトに関する指標として設定している。 施設で出産する妊婦の割合の増加、産後 7 日以内に産後ケアを受ける女性の数の増加、家族計画を実行する人の数の増加